

ご あ い さ つ

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋 本 浩 一

～13年間の折り返しに近づきつつあります～

エコチル調査の推進につきまして、日頃よりご理解、ご協力を賜りまして心から感謝申し上げます。

平成23年1月から開始され、東日本大震災からの復興とともに歩んできたエコチル調査は7年目に入りました。子どもたちは成長し、年長のお子さんは13年間の折り返しに近づきつつあります。福島県内では対象となる妊婦さんの「お二人に一人」が参加されており、出生した1万3千人に近い子どもたちは、保育園、幼稚園、小学校においてクラスの半分以上がエコチルキッズという、「エコチル同級生」の中で育っています。

全国15ユニットセンターのうち唯一福島県が全県下でエコチル調査を実施しており、参加者数が最も多く、半年ごとの質問票の返却率は4歳6か月時点でも80%を超え、福島県参加者の皆様には熱心にご協力いただいております。また、全体の5%のお子さんを対象に平成26年10月から実施されている詳細調査は、1.5歳時の訪問調査(環境測定)、2歳時の医学的検査及び精神神経発達検査は無事に終了し、現在、3歳時の訪問調査及び4歳時の検査が進められております。

平成28年5月に開催されたG7富山環境大臣会合においては、子どもの環境保健に関する長期的で大規模な疫学調査の一つとしてエコチル調査は高く評価され、推進すべきとされました。福島のご家族のお一人おひとり、そして関係者の皆様のご理解とご協力により世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査が支えられております。参加ご家族をはじめ関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。

平成30年度からはいよいよ子どもたちが小学校に入学し始めます。このため、平成28年度からは、福島県教育事務所の各所長及び福島県小学校校長会の役員の方々に、新たにエコチル調査福島ユニットセンター地域運営協議会委員にご就任いただきました。県内地域ごとに5つの地域運営協議会を設置し、各方面から総勢170名の委員の方々にご意見をいただきながら県内でのエコチル調査を進めております。子どもたちの成長とともに進化し続ける調査内容に合わせましてエコチル調査が適切に実施できるよう努めてまいりたいと考えております。

今後、震災後10年、20年と経過していく中で、必ず、「福島のある頃の子育てはどうだったのだろうか?」、「環境の影響はどうだったのだろうか?」と振り返り、問うときが来ます。福島県におけるエコチル調査はその問いへの準備という社会的責任があります。エコチル調査福島ユニットセンターは参加者の皆様の様々な思いに寄り添い、参加者や関係者の皆様といっしょになって子どもたちの成長を見守り、歩み続けてまいります。そして、一人でも多くの方々に、お子さんが13歳になるまで継続して参加していただくことが、確かな科学的知見へ導くと固く信じております。

年長のお子さんの折り返しが近づき一息つきたいところではありますが、子どもたちは日々成長しております。後れを取るわけにはいきません。今後ともご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。

平成29年 6月

